

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援事業所 はんざわ体操おクラブ		
○保護者評価実施期間	令和 6年 11月 20日		～ 令和 6年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和 6年 11月 1日		～ 令和 6年 11月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 6年 12月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	体操教室の時間を設け、跳び箱や鉄棒、トランポリンなど様々な種目に取り組みめるような内容になっています。	児童自身ができるようになりたい技を聞いたり、取り組みやすい技から始め、できたことへの達成感を感じていけるようにしています。	取り組み内容が偏らないよう様々な種目を行ったり、競技用の器具に触れる機会なども作ることで興味につなげたり、定期的に参加することで次のステップへ進めるよう活動内容を考えています。
2	放課後等デイサービスの児童と体育館で一緒に遊ぶ場面が持てることでルールのある遊びを知ることができたり、幅広い年齢層の児童とかかわりを持つことができている。	少し難しい遊びにも参加する機会を作っていくことで、わからないことを質問する場面が経験できるようにしています。	積極的に異年齢の児童との交流の場を作っています。また年長の児童に関しては、小学生との関わりを持つことで放課後等デイサービスへの移行がスムーズになるよう進めています。
3	職員の年齢層も幅広く、様々な資格を持った職員が在籍しています。	体操や工作、音楽など得意分野を活かしながら児童と関わり、いろいろな視点からの情報を職員間で共有し、日々の療育の参考にしています。	職員間で情報を交換しながら新しい活動を取り入れたり、新たな資格を取得したときにはその資格を活かした内容を取り入れていけるよう環境を整えていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	体育館には競技用の器具を設置している為、ワイヤーがあったり、段差等がある為常に注意して見ていく必要があります。	器具の設置がある為、段差等ができてしまいます。危険な箇所については職員間で話し合い、怪我につながらないように見直しを行っています。	危険な箇所については必要に応じてマットを敷いたり、カバーをつけることで対応しています。
2	職員間での情報共有が十分にされていないことがあります。	情報を共有する職員に偏りがあり、全体への周知の確認が取りにくいことがあります。	非常勤の職員もいる為、連絡ノートや口頭での引継ぎがされているかを確認し情報共有を徹底していきます。
3	地域とのかかわりや交流の場が持ちにくいです。また事業所外での活動が少なくなっています。	事業所の中での異年齢の児童とのかかわりは持っていますが、地域の人とかかわりの場への参加は難しいのが現状です。	事業所内での活動だけでなく、地域の方との交流やイベントなどに参加する機会を検討していきます。また参加できていたこともある為、どのような方法で行くのかどのような支援が必要かを考え、継続して参加できるように考えていきます。